

常呂川森林ふれあい推進センター

平成28年度 年 報

# オホーツクの「森」から



発行に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園など、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

林野庁常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等の活動の支援、技術指導等を行っています。

この度、平成28年度の主な活動内容がまとまりましたのでご覧下さい。

---

## 目 次

森林環境教育の取組み	・・・・・・・・ 1 頁
地域との連携・普及啓発等の取組み	・・・・・・・・ 8
自然再生・生物多様性保全の取組み	・・・・・・・・ 13
活動区域及び所在地	

---

## 森林環境教育の取組み

### 【ボランティア育樹】



6月15日（水）、「第13回オホーツクの森ボランティア育樹」が行われ、端野小学校・常呂小学校の5年生を含め、168名の参加を得て、アカエゾマツ人工林の枝払いを行いました。

この「オホーツクの森ボランティア育樹」は、常呂漁業協同組合、オホーツクみどりネットワーク、オホーツク森の案内友の会、森林ボランティア「オホーツクの会」、北見市、網走中部森林管理署、当センター等の民間団体と関係行政機関

で構成する実行委員会（中島実行委員長）が開催しました。

6月に入ってから、天候不順の日が続き空模様が心配されましたが、青空の下での実施となり、参加した小学生からは「初めてノコを使った。最初は難しかったけど教えてもらって切れるようになった。もっと切りたかった。」「太陽の光を受けることで、草などが生え土砂崩れを防ぐことを知った。ゴミを捨てないなど、自然を守るために身近なことだからやりたい。」等の感想が寄せられました。また、午後からは希望者を募り森林散策等も行われ、一般公募で参加した女子学生からは、「ポスターを見て初めて参加しました。枝払いも森林散策も楽しかった。また、参加したい。」という感想もあり、「オホーツクの森」を満喫した一日となりました。

### 【子ども探検隊】

7月23日（土）、「オホーツクの森」で北見市周辺の小学生12名の参加を得て開催しました。

この「こども探検隊」は、森林の探検や自然観察・森林での遊び体験を通じて、森林や自然の魅力を発見し、森林や林業、自然の大切さを感じてもらうために、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て行いました。

始めに、アイスブレイクを行った後、3グループに分かれて行動を開始し、森林探検では、ジャンケン・クイズ・早口ことば・「カモフラージュ」・双眼鏡を使っの動物カード探し等にチャレンジしました。また、倒れた木が川にかかっているのを渡ったり、川遊びをしたり、「オホーツクの会」の協力で作成したターザンロープやブランコを楽しみました。午後からは、落ち葉を使った「とじこめーる」や枝を使った写真立て、コースター作り、種飛ばし等、子どもたちは時間一杯楽しんでいました。



### 【森林教室】

7月16日(土)、「オホーツクの森」で遠軽町生田原教育センターが主催する、キッズ・チャレンジクラブ「森林学習」を支援しました。

当日は、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、27名の子どもたちが4班に分かれて、森で、川で、自然の中で楽しみました。

子どもたちだけのグループでの森林探検では、ジャンケンやクイズ、双眼鏡を使った動物カード探し等、5つの問題を出しましたが、上級生が下級生をしっかりとリードして、課題をクリアしていました。

この森林教室は2年目となり、今後とも内容を工夫しながら、新たな趣向で子どもたちへチャレンジしたいと思います



### 【企業の活動支援】



9月3日(土)、北辰土建株式会社の要請を受けて、ボーイスカウト北見第2団の子どもたちも参加し「オホーツクの森づくり」を支援しました。

この支援は平成21年度から取組んでおり、森づくりや緑化活動等を通じた、企業及び団体等の社会貢献として行われています。今年度は、「自然再生モデル林」で、アカエゾマツの枝払いを体験するとともに、「森の家」周辺で自然解説を行いました。

### 【フィールド見学・意見交換会】

オホーツク管内の森林管理署等の職員を対象として、森林環境教育等のスキルアップと情報交換を目的として、平成22年度から開催しています。

今年度は、9月9日(金)に10名の若手職員が参加し、ネイチャーゲームや木の葉・枝等を使用した工作に取り組むとともに、森林教室を実施する際の注意事項等を説明しました。出席者からは、「草花の知識も増やしていこうと思った。」「子どもの質問に答えるのは、大変だと実感した。」等の感想が寄せられました。



## 【森林環境教育に関するアンケート調査】

当センターは、森林環境教育の実施及び NPO や教職員等の環境教育を担う人材育成の支援・技術指導等を活動の一環としていますが、総合的な学習の時間縮減や基礎学力充実の傾向から、森林教室等の実施が少ないのが現状です。

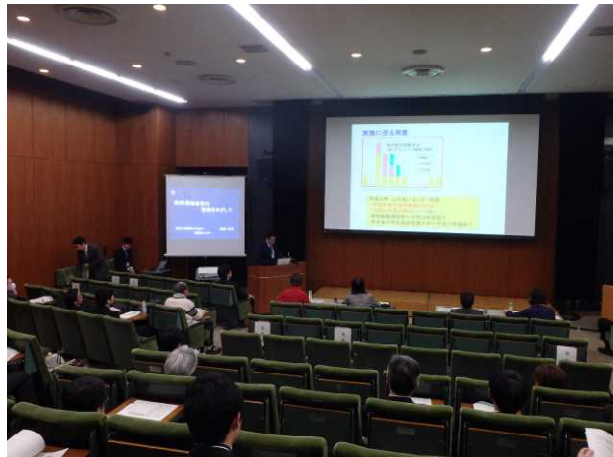
こうした状況から、北見市教育委員会等のご助言をいただきながら、当センターがどのような提案・支援に取り組むことができるかを検討するため、授業に関わっている先生方の声を聞かせていただきたいと考え、平成 28 年 7 月～ 8 月にかけて、北見市内の小学校の先生を対象として、アンケート調査を実施しました。

なお、平成 29 年 2 月 2 日に、林野庁 北海道森林管理局が開催する「北の国・森林づくり技術交流発表会」で発表しました。

### 森林環境教育の推進をめざして ～教員アンケートからみえたこと～

北見市内の小学校の先生を対象に行った森林環境教育に関するアンケートの取り組みについて、「アンケート調査実施の背景」「調査結果と考察」「まとめ」の順に報告します。

はじめに、今回のアンケートを実施するに至った背景ですが、常呂川森林ふれあい推進センターは、自然再生と森林環境教育を活動の中心として平成 16 年に森林環境保全ふれあいセンターとして発足しました。



▽発表の様子

しかし、学校を対象とした「森林環境教育」、森林教室などの取り組みは、毎年端野小学校、常呂小学校の 5 年生に参加いただいているボランティア植樹・育樹を除くと非常に少ない状況です。

いわゆる「ゆとり脱却」の平成 22 年度以降は、1 回もしくはゼロとなり、新任教職員研修は平成 24 年度で修了、日本赤十字北海道看護大学の課外授業も平成 27 年度で修了となりました。

まさにふれあいセンターの存在意義が問われる事態であり、「これじゃあいかん！何とかしなくては？」そんな思いで毎日を過ごしていました。

そんな時、ある自然ガイド関係の講習で「企画のスタートはマーケティング」という話がありました。

ターゲットは誰か？商品が売れるために必要な条件は何か？というような話で、まずは、消費者の欲求を満たすこと、次に、消費者がその商品の特徴・性能を知っていること、そして、売っている場所、入手方法を知っていること、この 3 点と金額が見合ったときに商品は売れる、という話です。

例として、「腹減った、何か食べたい」という欲求があります。

「ラーメンにしようかな」と考える時には、ラーメンの味や食感がイメージできています。つまり、その特徴・性能を知っているということです。

札幌には有名ラーメン店もたくさんありますが、普通の住宅と同じような建物だったらお客さんは入りません。

「ラーメン」の看板やのれんがあるから分かるんです。

商品が売れるためには、お客さんが売っている場所、入手方法を知っていることが必要ということです。

「それは自然ガイドも同じで、お客さんを集めるためには…」と言われたとき、「森林教室も同じじゃないか…」と思いました。

ターゲットである学校の先生が森林環境教育・森林教室という商品をどう見ているのか、どう思っているのかを知ることから始めようということでアンケート調査の取り組みとなりました。

次に、調査結果について若干の考察を含めて報告します。

アンケート集計の結果です。

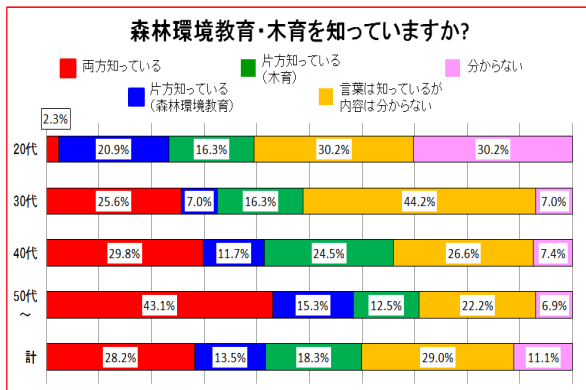
北見市内の全小学校 25 校、授業に関わる先生 441 名を対象に調査票を配布、23 の小学校、252 名 (57.1 %) から提出がありました。

年代	男	女	計
20代	23	20	43
30代	20	23	43
40代	33	61	94
50代～	46	26	72
計	122	130	252

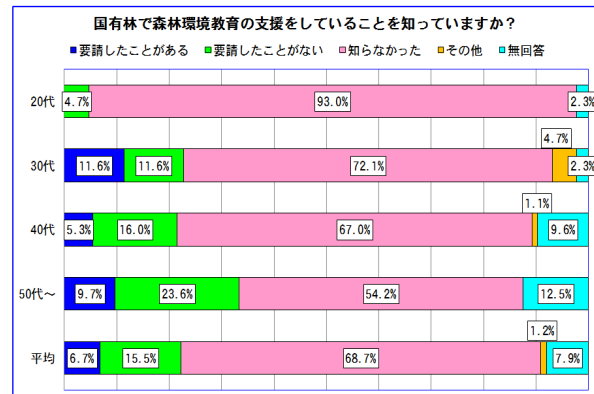
森林環境教育・木育について、「知っているか【表1】」を聞きました。

「両方知っている」28.2%、「どちらか片方知っている」森林環境教育 13.5%、木育 18.3%という結果となりました。

年代が若いほど認知度が低くなり、20代では「両方知っている」との回答はわずか1名、2.3%でした。



【表1】



【表2】

「国有林で森林環境教育の支援をしていることを知っていますか？【表 2】」という設問です。

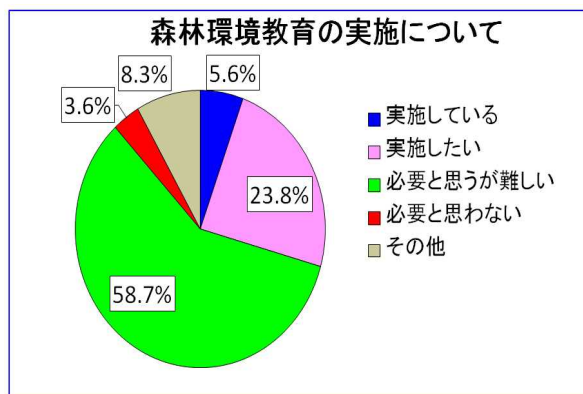
ショックでした。68.7 %、3 分の 2 以上が「知らない」との回答で、20 代では 93 %、ほとんどが「知らない」との回答です。

「森林環境教育の実施について【表 3】」聞きました。

5つの学校、14名から「実施している」との回答がありました。

これに「実施したい」を合わせるとおよそ 3 割が森林教室等に関心があることがわかります。

一方、およそ 6 割、58.7 %が「必要と思うが難しい」との回答であり、「森林環境教育のイメージが分からない」「内容が分からないので判断できない」などの意見もありました。また、「必要と思わない」の回答は 3.6 %でした。

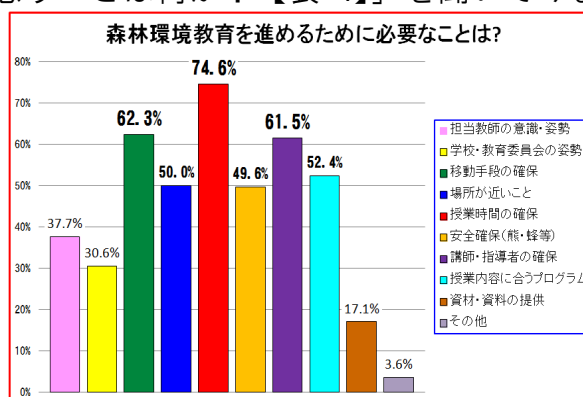


【表 3】

「森林環境教育を進めるために必要と思うことは何か？【表 4】」を聞いてみました。

その結果は、「授業時間の確保」が 74.6 %で一番であり、「移動手段の確保」62.3 %、「講師・指導者の確保」61.5 %と続いています。

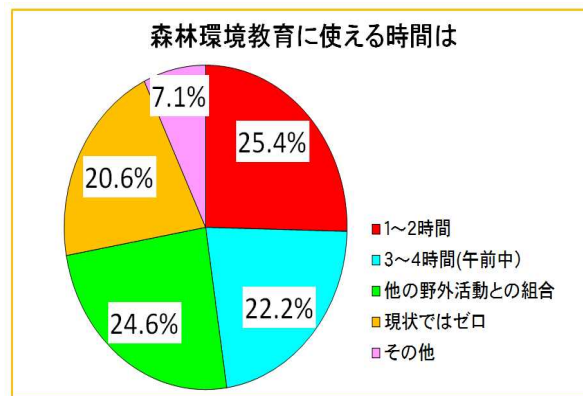
その他にも、「授業内容に合うプログラム」、「場所が近いこと」、「安全確保」などに多くの回答がありました。



【表 4】

「森林環境教育に使うことのできる時間は？【表 5】」ということで聞いてみました。

「1～2時間」、「3～4時間」、「他の野外活動との組み合わせ」がほぼ同数という結果となり、年代や性別による大きな差はありませんでした。

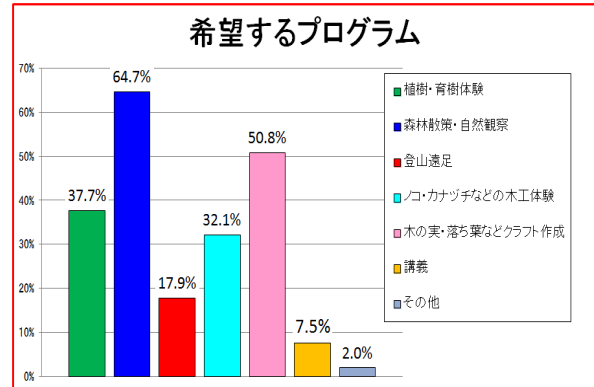


【表 5】

「その他」で記載された意見の多くが、「学年・内容によって変わる」、「内容がわからないので答えられない」というものであり、「現状ではゼロ」の 20.6 %を除く 8 割が、プログラムや場所を工夫することで実施可能と判断することができます。

「希望するプログラム【表 6】」を聞いてみました。

その結果は、年代・男女による差はほとんどなく、「森林散策・自然観察」、木の実・落ち葉などの「クラフト作成」、「植樹・育樹体験」、「木工体験」、「登山遠足」、「講義」と同じ順番になりました。



【表 6】

なお、その他の調査結果については時間の関係で割愛させていただきます。

まとめに入ります。

森林環境教育を始めに紹介したマーケティングの「商品が売れる条件」に当てはめて考えてみました。

商品が売れる条件の 1 番目は、ターゲットの「欲求を満たすこと」です。

森林環境教育の実施についての集計です。【表 3】

「実施している」「実施したい」との回答が 3 割、これだけでも 70 人以上になります。

これに「必要と思うが難しい」を加えると 9 割のニーズ、欲求があることが分かります。

商品が売れる条件の 2 点目は、消費者が商品の「特徴・性能を知っている」ということです。

「希望するプログラム」は、「森林散策・自然観察」、「クラフト作成」、「植樹・育樹体験」の順であり、「使うことのできる時間」は 1・2 時間～半日程度までほぼ同じで、プログラムによって変わるというようことが分かりました。

【表 5】【表 6】

- ・ どこで
- ・ どんなことをするのか
- ・ 時間はどのくらいかかるか

### 商品が売れる条件

消費者の欲求を満たす

消費者が商品(特徴・性能)を知っている

消費者が売っている場所、入手方法を知っている

金額が合う

など、具体的なプログラムを「知らせる」ことが、森林教室の実施に結びつくと思います。

商品が売れる条件の3番目は、消費者が「売っている場所、入手方法を知っている」ことです。

「森林環境教育を進めるために必要なこと」の集計結果では、6割以上が講師・指導者の確保が必要としています。【表4】

その一方、3分の2以上が国有林が森林環境教育を支援していることを知りませんでした。【表2】

店の看板を上げなければ誰も気づきませんし、どんなに良いものでも売れないということです。

商品が売れる条件の4つ目は、「金額が合う」ということです。

「金額が合う」ということを森林環境教育に当てはめると、金額は授業時間の確保、移動手段の確保、講師・指導者の確保、安全確保など学校・先生の負担ということになります。

そうした学校・先生の負担と森林環境教育・森林教室の価値が見合うかどうかということです。

総合的な学習の時間だけでなく、社会や理科、図画工作などの授業時間を利用できるプログラム、学校周辺や公園など移動・安全確保の負担を少なくできるプログラムなど、ハードルを低くする努力が必要です。

また、魅力あるプログラムを提供すること、国有林だからできる・国有林にしかできないプログラムなど商品価値を高める工夫も大事です。

最後に、結論です。

まずは、「学校に足を運び、先生方と話をしてみよう！」ということです。

アンケートでも「森林環境教育を必要と思わない」との回答はたったの3.6%です。このことに自信を持って学校に働きかけをすることです。

また、新たなプログラムを作ることも大事ですが、プログラムができてからの行動ではなく、今現在持っている知識や経験、技能の中でできることをやること、それがスタートです。

すぐに森林教室の実施には結びつかなくても、森林環境教育とは何かを知ってもらうこと、森林管理局・署・ふれあいセンターが森林環境教育に関する支援を行っていることを知ってもらうだけでも成果です。

とにかく行動を起こすこと、結果をおそれずやってみるということです。

最後に、アンケート調査に協力いただいた関係者の皆さんにお礼申し上げ、報告とさせていただきます。



## 地域との連携・普及啓発等の取組み

当センターでは、民国が連携した取組み、森林環境教育に携わる関係機関や森林ボランティアの活動支援・技術指導、緑の普及啓発等に取組んでおり、その中からいくつかを紹介します。

### 【地域と連携した取組み】

#### 北海道農政事務所北見地域拠点

#### 7月28日(木)～29日(金)「夏休みこども見学デー」



この催しは、農林水産業への理解を深めてもらうことを目的に開催され、北海道農政事務所北見地域拠点の呼びかけに、網走中部森林管理署、網走南部森林管理署及び当センターが参加しました。

2日間で約160名が来場し、当センターでは「オホーツクの会」の協力を得て、「オホーツクの森」を紹介するパネル展示、マツボックリ等の木工クラフトや種飛ばし等を行いました。

#### オホーツク総合振興局東部森林室

#### 8月11日(木)「藻琴山散策会」

今年から祝日となった「山の日」を記念して、オホーツク総合振興局東部森林室、網走南部森林管理署と当センターの共催で、藻琴山散策会を開催しました。

参加者38名は、大空町東藻琴側の登山口6合目を5班でスタートし、遊歩道では森林室、森林管理署と当センターの職員が自然解説を行い、サルオガセ、ゴゼンタチバナ、オガラバナ、ベニバナイチヤクソウ、ダケカンバ、ハイマツ等の植物を観察しました。当日は天候に恵まれて、厳しい暑さの中での森林散策となりましたが、8合目では湧水「銀嶺水」で喉を潤しながら、全員が山頂(標高1000m)まで到着し、オホーツク海や知床連山、屈斜路湖等を眺望しました。



#### 8月25日(木)「木育・森林環境教育意見交換会」

オホーツク総合振興局東部森林室と当センターが、オホーツク地域における「木育」と「森林環境教育」の連携した取組みに向けた意見交換を行いました。

今年度は、津別町道有林のチミケツップ湖畔で現地検討を行うとともに、それぞれのフィールドの状況や活動内容等を情報共有しました。

## 北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル北見

### 1月14日(土)「ネイパル de 学ぼう! 冬休みキャンプ」

当日は、オホーツク管内の小学生3～6年生の20名が集まり、当センターから2名が講師として参加し、「どきどき! 探検タイム ビンゴ」として、動物の足跡探しや樹木が冬を生きる工夫の観察を行いました。

まず始めに、ネイパル北見の職員から、スノーシューの履き方の説明があり、その後、子どもたちはスノーシューの装着に悪戦苦闘していましたが、ボランティアの高校生等に手伝ってもらい履き終え、当センター職員から、積雪の森林を歩く際や樹木を観察する際の注意事項を説明し、出発となりました。

この「どきどき! 探検タイム ビンゴ」とは、自然観察をビンゴというゲーム感覚で行うもので、色や手触り、見た目により、森林には面白いものや不思議なものがあることに気づき、友達と協力し合い、楽しみながら行うものです。

当日は、「プロペラのようなタネ」「あみだクジ」等、森林の面白いものや不思議なものを九つ掲載し、子どもたちはビンゴが完成できるよう、熱心に森林を観察していました。



## 網走市

### 1月11日(水)「冬休み木工クラフト教室」



網走市農政課及び網走市教育委員会による「冬休み木工クラフト教室」が開催され、当センターから2名が講師として参加しました。

当日は、網走市内の小学生9名が集まり、「落ち葉のスタンドグラス」と「マツボックリ等の木工クラフト」を作成しました。

まず始めに、当センター職員から、カッターナイフ等の道具の使い方の注意や作成のポイントを説明し、早速「落ち葉のスタンドグラス」の作成にとりかかりました。

この「落ち葉のスタンドグラス」は、黒色画用紙へ切抜く型を描いた後、その型を指で切抜き、押し葉と一緒にラミネートフィルムに挟んで、熱着するものです。

また、「マツボックリ等の木工クラフト」では、子どもたちの自由な創造をテーマとしたところ、終了時間を過ぎても熱心に作成している子どももいましたが、最後はそれぞれの作品を持寄り、記念撮影を行いました。

## 森林ボランティア「オホーツクの会」

### 10月2日(日)「斜里岳原生林森林散策会」



日本百名山の一つである斜里岳のウォーキングコースで、森林ボランティア「オホーツクの会」が主催する森林散策会が開催され、当センターから2名が参加し活動を支援しました。

当日は天候に恵まれ、標高 680m の清岳荘を出発し、標高 800m 付近までのコースを約 1 時間 30 分かけて散策しましたが、出発地周辺では、ダケカンバ・ナナカマドを主体とするトドマツ・エゾマツが混交する森林でしたが、登るにつれて風や積雪の影響で樹高が低くなり、標高の変化を感じました。また、足下にはいろいろなキノコやツルリンドウ等を観察することができました。

到着地点では、斜里町・清里町を中心とした田園風景が、まるでパッチワークのように広がり、遠くにはオホーツク海が一望できる景色に歓声が上がっていました。

### 【オホーツクの森の PR】

各種行事へ参加し、当センターの活動及び「オホーツクの森」を PR するため、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、クラフト作成やパネル展示、自然解説等に取り組んでいます。

### 春の花と緑の園芸祭

北見市の緑のセンターで 5 月 12 日(木)から 18 日(水)にかけて、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得て、パネル展示とクラフト作成を行いました。

この「春の花と緑の園芸祭」は、北見園芸協会が主催するもので、期間中は当センター及び「オホーツクの会」の活動を紹介するパネル展示、「オホーツクの会」の会員が作成した本物と見まがうようなクラフトも展示され、来場者の目を楽しませました。



また、14 日(土)と 15 日(日)には、カラマツとエゾマツのマツボックリ等を利用したクラフト作りや「竹とんぼ」作りを行いました。来場者からは「白いエゾエンゴサクは珍しいですね。」「子どもと一緒にできて、良かったです。」等の感想が寄せられました。

## 森の魅(味)力を感じよう！



6月5日(日)、「オホーツクの森」で山菜アドバイザーの工藤森生氏くどうもりおを講師に招き、今年から祝日となる山の日(8月11日)を記念して、「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する。」を趣旨に開催したもので、北見市の住民等30名が参加しました。

工藤氏からは、「山菜採取は【欲】との闘いであり、独占欲(人には教えたくない)・物欲(たくさん採りたい)を捨てることが大事。恵みに感謝し、根こそぎ取るのではなく、ゴミや泥が付かないよう丁寧に採ることで下処理も楽にできるし、翌年も採ることができる。また、毒草による食中毒に注意するためには、知らないものは採らない、毒草が混ざらないよう丁寧にゆっくり採ること。」等、山菜採取のマナーと注意の話がありました。

その後、試食用の山菜を採取し、みそ汁(ヨブスマソウ、セリ、ミツバ)、和え物(ウド、ヨブスマソウ)等の調理・試食となり、参加者からは「採ったばかりの山菜は、アクも少なく調理も楽だった。」や「ヨブスマソウは初めて食べたけど、食感がいい。」等の感想が寄せられました。

午後からは、当センターが「オホーツクの森」で取組んでいる、自然再生活動やボランティア活動をPRするとともに、フキ、ウド、ワラビ等を適量採取し、オホーツクの森を後にしました。

### 【緑の普及活動】

緑の街頭募金運動(4月22日)、北見市民植樹祭(5月15日)、オホーツクみどりネットワーク全体会議(5月27日)、ワッカ原生花園での外来種駆除活動(9月16日)等へ参加し、緑の普及活動に取り組みました。



### 【広報活動】

これまで当センターでは、イベントのご案内や「オホーツクの森」の自然情報等をホームページに掲載してきましたが、情報提供の充実を図るため、平成27年4月から広報誌「森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク」を発行しています。

このタイトルには、「森のことを盛りだくさんに伝えたい。」という思いとその決意が込められています。そして、オホーツクの地域が、読んでくれた人々が、元気モリモリになれば、との思いも込められています。

今年度は、No12～No17を発行し、当センターの活動をPRしました。

この他、当センターでは、取組内容を紹介できなかった次の行事へ参加するとともに、ボランティア団体等の活動支援・技術指導等を行っています。

- 北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル北見  
5月1日（日）子どもフェスタ  
8月13日（土）親子で楽しむアウトドアフェスタ



子どもフェスタ

- オホーツク森の案内友の会  
7月30日（土）幌岩山自然観察会



おけと湖水まつり

- おけと湖水まつり実行委員会  
7月31日（日）おけと湖水まつり

- オホーツクみどりネットワーク  
8月6日～7日 オホーツク森林フェスティバル



森林フェスティバル

- 網走市  
8月27日（土）あばしり学講座

- 北見地産地消推進委員会  
9月3日（土）北見地産地消フェスタ 2016



あばしり学講座

- 北海道  
9月22日（木）道民森づくりネットワークの集い 2016

- 常呂川森林ふれあい推進センター  
10月1日～10日 のパネル展示「森へおいでよ！」



ネットワークの集い

- コープさっぽろ  
1月28日（土）コープさっぽろ「未来の森林づくり」

- 森林ボランティア「オホーツクの会」  
2月19日（日）冬の自然観察会



冬の自然観察会



未来の森林づくり



森のパネル展

## 自然再生・生物多様性保全の取組み

### 【企画運営協議会】



「オホーツクの森自然再生モデル事業」企画運営協議会は、平成 17 年 10 月に発足し、「自然再生モデル林」における森林づくりの活動や今後の森林の取扱いを検討しています。

平成 17 年度からは、モニタリング調査を実施し、自然再生が進む森林の状況を把握しています。また、平成 19 年度からは樹種転換地域でカミネッコンによる植樹、平成 20 年度からは自動撮影装置による野生生物のデータ収集を行うと

ともに、網走中部森林管理署及び網走南部森林管理署と連携を図り、自然再生・生物多様性保全の取組みを進めています。

今年度第 1 回目の企画運営協議会は 10 月 28 日（金）に開催され、地域住民が「自然再生モデル事業」及び「オホーツクの森」に関心を持ってもらう工夫等について検討が行われるとともに、刈出箇所、企業等活動支援箇所及び伐採予定箇所で見意見交換が行われました。

### 【常呂川<sup>もり</sup>森林づくり塾】

「森林づくり塾」は、森林の再生に興味を持ってくれる人が一人でも多くなり、森林に親しんだ人の中から、将来的にはボランティア活動等に参加してくれる人が増えることを目指し、平成 21 年度から開催しています。

今年度は、「森林・木材の素晴らしさを体験していただく」ことをテーマとして 2 回計画しました。

第 1 回目は、7 月 9 日（土）に 15 名の参加を得て開催し、午前中は自然再生モデル事業地を案内しました。午後からは留辺蘂町の製材工場に移動し、CLT で建てられたセミナーハウスやカラマツ材の集成材加工工程を見学しました。

また、第 2 回目は、9 月 24 日（土）にカミネッコン植栽箇所の手入れを予定していましたが中止となりました。

次年度においても、引続き取り組んでいきます。

### 【オホーツクの<sup>もり</sup>森林づくり】

6 月 26 日（日）、オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会による森林づくり活動を開催しました。



今年度は、エゾシカの食害から植栽木を守るための防護シートの補修及び植栽木の場所がわかるように、標示杭の設置を行いました。植樹した広葉樹は、参加者の皆さまによる手入れにより年々、生長しています。

また、午後からはワッカ原生花園へ場所を移し、海岸特有の植物等の自然観察を行い、この日の活動を終了しました。



### 【野生生物撮影調査】

オホーツクの森の「自然再生モデル林」に生息する、エゾシカや中大型ほ乳類等のデータを収集することで、当該地区における自然環境の状態や特性等を把握し、森林管理及び野生生物管理に活用することを目的に実施しています。

この調査は、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを、道路沿いに6台設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。

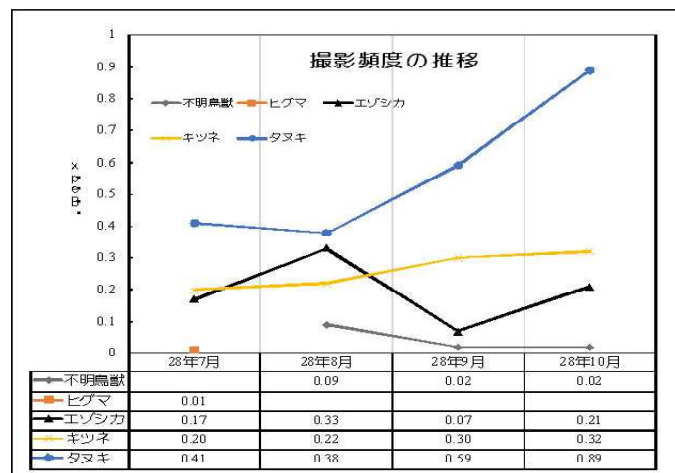


今年度は、7月6日～27日の21日間、8月9日～18日の9日間、9月5日～14日の9日間及び10月3日～26日の23日間の4回実施し、ヒグマ・エゾシカ・キツネ・タヌキの他、9種のほ乳類や鳥類が撮影されました。調査の結果は次の図のとおりで、タヌキの撮影頻度が高くなっています。

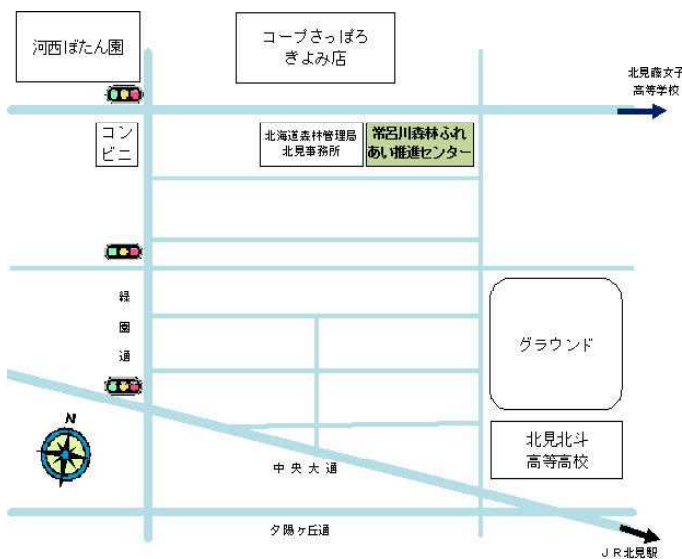
なお、調査に当たっては、「北海道野生生物観測ネットワーク」に参加するとともに、国立研究開発法人 森林総合研究所 北海道支所の指導を受けて実施しており、次の URL で道内各地の観測結果を見ることができます。

(<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/hiroh/wildlife-monitoring/index.html>)

上から、\*エゾライチョウ (28.10-P2) \*コウモリ類 (28.10-P3) \*ユキウサギ (28.10-P4)



## 活動区域及び所在地



### JR 北見駅から

北海道北見バス「緑が丘線」に乗りし、「消防署前」で下車。徒歩約3分  
または、北海道北見バス「美山線」に乗りし、「清見中央」で下車。徒歩約5分

### お車でお越しの方

#### ※網走方面から

国道39号をJR北見駅前まで右折し直進。NHK北見放送局手前を右折し、北見北斗高校右横を進み、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい

#### ※旭川方面から

国道39号を栄町3丁目交差点で緑園通へ左折し直進。花月町6丁目交差点を右折し、コープさっぽろ「きよみ店」の向かい



林野庁 北海道森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

## 常呂川森林ふれあい推進センター

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3

【TEL】0157-23-2960 【FAX】0157-26-2144

[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/index.html)

